

弘教寺  
ぐきょうじ

星野富弘先生を偲ぶ

星野富弘先生を偲ぶ

弘教寺住職 中山英昭

5月初旬、先生の訃報を知りショックを受けました。多くの人に感動と勇気を与え続けた先生の78年の生涯でした。

先生との出会いは今から四十五年以上前になります。私の教師時代、職員室の机上一枚のハガキがおかれてありました。障害を持つ方の絵画展(二人展)の案内でした。

私に旧勢多郡東村との関わりが無ければ見過ごしていたと思います。転任前三年間お世話になった村の出身であったことから何か関心がわき、前橋市の身障者センターに参りました。

先生は倉賀野中学に勤務のおり、体操の指導中にバク転の着地に失敗し、背推損傷のため首より下の神経を失い、寝たきりの状態となりました。

大間々町のご住職の話では高校時代ワンダーフォーゲル部在籍のおりに出会ったと言われてましたので、スポーツ万能の方だったのでしよう。そんな先生でしたので、身体が動かないということは、本当に大きなショックであったと思います。後の先生の著書でも付き添って介護していたお母さんに食べていた物



第57号

発行所

〒370-0131  
伊勢崎市境米岡二七九-二  
浄土真宗本願寺派弘教寺  
寺報編集部  
電話 0270(七四)0573



寺のQR

を不満のはげぐちとして吹き付ける場面があります。如何に苦悩の日々であったかが分かります。

展示会場はセンターの一室で、それ程大きい会場ではありませんでしたが多くの方々が来られておりました。富弘先生とたぶん平田さんという方の二人の作品展でした。

ひらがなのたどたどしい練習したものや白黒のデッサン等大変な苦勞が想像されました。

首より下が動かず、筆を口にくわえて描くことですから、一日一時間が限界であったようです。時間とともに上達されていく作品に感心し、その集中力と努力に頭が下がりました。



故郷の旧東村神戸(ごうど)に帰られたおりに一度ご自宅をお伺いした事がありました。穏やかな先生にお会いしお話ができたことは感無量でした。その折り、久保田稔さんという方とたまたま出会いました。当時障害者センター長をされていた方で、先生を世に出したまさに仕掛人でした。お話を聞くと私の父の県の福祉関係在職時代の後輩でした。ご縁の不思議さを感じました。

先生は故郷で作品を世に出し続けました。何と言っても身近にある花とそこに添えられてある何気ない優しい言葉のバランスが素晴らしいハーモニーとなって感動的作品的の数々になつていのように思えます。

草木湖畔にあります『星野富弘美術館』にはこれまでに七百万人を超える方々が出向かれ今も感動と勇気を与え続けております。

以前神奈川県障害者施設で入所者十数名を殺害するいまわしい事件がありました。施設に勤める職員で、障害者は何の役にもたず殺した方が世のためだと言う殺害動機であったように思います。本当に身勝手な人間だと怒りを感じました。そのような思いを持つ人に先生の作品をみて欲しいと思います。

先生のご功績は、障害を持つ方々だけでなく多くの人々に自信、勇氣、励まし、可能性を与えて下さったと思います。先生との出会いに感謝し、素晴らしい絵と詩に感謝して筆をおきます。

合掌

## 親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年築地本願寺慶讃法要



令和六年四月二十七日、築地本願寺で行われた親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃法要に、弘教寺門徒二十一名の団体で参拝させて頂いていただきました。そのうち半数以上の十一名が帰敬式を受けられました。

中山真悟

## 慶讃法要に参拝して

パイプオルガンの調べが本堂内に響き渡り慶讃法要が始まりました。庭儀が行われ群馬組を代表する一人として弘教寺衆徒の大悟さんが参加されました。

特命布教による法話終了後、この度の慶讃法要のために新たな法要作法として制定された新制御本典作法(第一種)により速夜法要が営まれました。



正信偈については、普段仏教壮年会の際にお勤めしている節まわしではなく、和讃譜という独特の節まわしで、一緒にお勤めをしていて大変心地良いものでした。引き続き前門様のご法話、恩徳讃



の唱和により法要は終了となりました。五十年に一度の大法要に巡り合わせて頂き大変意義のある一日となりました。橋本豊

## 法名いただきました

このたびの大きな節目である慶讃法要に参拝出来たことをとても嬉しく思います。数年前に身体を壊してからは中々外へ出る機会も減ってしまいました。今回こうしてお誘い下さり誠に有難う御座いました。

暫くぶりのバスで行く築地本願寺までの道程はとても快適なものでした。インド様式の外見に西洋のテイストを取り入れた素晴らしい寺院での慶讃法要は、厳粛ですが、何か新鮮な感じがしました。法要の後に帰敬式にて法名を授かりました。これを機会に浄土真宗門徒として一歩一歩あゆみを進めて行きたいと思う次第であります。

金場 達志(釋速証)

## 帰敬式について

帰敬式は、「おかみそり」とも言われ、仏・法・僧の三宝に帰依し、親鸞聖人が明らかにされた教えに自らの人生を問いたずね、真宗門徒として新たな人生を歩み出すことを誓う大切な儀式です。式を受けると「釋○○」という「法名」が授与されます。法名をいただくことは、お釈迦様の弟子となることの証であり、南無阿彌陀仏のみ教えに導かれ、仏道を歩む者としての新たな名告りでもあります。

今回は築地で行われる記念の慶讃法要ということもあり、関東各地から多くの方が帰敬式を受けに参拝され、弘教寺からも十一人の方が受式されました。式は厳粛な雰囲気の中で行われ、合掌礼拝、三帰依文をお唱えした後、刃のない剃刀を三回頭にあてる儀式が行われました。そして、順番に名前が呼ばれて法名が授与され、代表者が帰敬文を拝読し、導師からお話をいただき、最後に合掌礼拝をして終了となりました。受式者には、法名の他に記念の式章、念珠、経本入れが授与されました。式を受けた方々は、皆さん晴れやかな顔をされていて、「緊張したけど、尊いご縁をいただけて良かった」「阿彌陀様に見られているんだなどあらためて感じて気持ちが変わった」「式を受けられて安心した」などのお声がありました。

中山大悟



## 教区仏婦一日研修会に参加!

私は弘教寺にご縁をいただき婦人会に参加してまだ日も浅いのですが、この度、築地本願寺参拝の機会を得ることができました。

3月1日(金) 東京教区仏教婦人会連盟一日研修会が開催されました。坊守様と仏婦会長さんとご一緒でした。朝早く出たので東京スカイツリーに立ち寄ることもできました。

インド様式の築地本願寺に初めて入らせていただきました。堂内の荘厳さには、目を見張り身震いする思いでございました。見上げるご本尊様に手を合わせると身が引き締めまり涙が出てきました。また、お経の響きが体内中を巡り回るようでした。

研修会では、照本さおり先生のご法話「どうして思い通りに生きられないのでしょうか」と南荘宏先生の「仏教讃歌のおあじわい」がありました。特に南荘先生の歌のご指導では、お経とは違う何とも言えない仏教讃歌の美しう素晴らしい響きに涙し、広い世界へ連れていかれるような心地よい感覚を覚えました。亡き父母が導いてくれたとも思えるこのご縁に感謝し、これからのお念仏の日々を歩んでまいりたいと思います。



縁に感謝し、これからのお念仏の日々を歩んでまいりたいと思います。

南無阿弥陀仏

夏井 美保子

## 二月の仏婦例会は「手芸教室」

今年、坊守さまが以前埼玉のお寺の坊守様より頂いた「小豆のホットほっとアイマスク」を思い出して見せてくださいました。初めてなので見本をほどこいて中までよく見ますと、タオル地で作った袋に小豆が入っているだけでした。「出来そう!」今年はこれに決定です。早速お寺よりバスタオルとスポーツタオルを預かり、サイズには少々バラつきができましたが無駄のないように裁断して袋の用意をしました。



当日は、皆さん久しぶりの針仕事の様子。中々針に糸が通らなかつたり縫い始めが分からなかつたりしましたが、無事全員仕上げることができました。二個以上作った方もおりました。できた方から坊守さまがレンチンしてくれると、小豆の良い香りが漂いました。レンジで一分。二五〇回ほど使用できます。目や肩に当て三〇分位気持ちよさが持続します。とても皆さんに好評でした。帰宅後家族に試してサイズを変えたり紐を付けたり要望に合わせて、何個も作った方も居りました。

いつも作品ができた翌日から次回は何にしようかと悩みます。会員の皆さん、ご希望やアイデアを募集します。

佐々木祐子

## みんなの花まつり

4月7日、「みんなの花まつり」を開催しました。参加者は16名。「らいはいのうた」のお勤めの後、真悟さんからお釈迦さまのお誕生を祝う「花まつり」のお話を聞きました。甘茶かけのお釈迦さまは、誕生仏と言って子どものころの姿ですと聞いて、子どもたちは驚いたように声を上げました。そして、大型紙芝居「おしゃかさま」を大悟さんに読んでもらいました。生まれてすぐに立って7歩歩み、「天上天下唯我独尊」と言ったというお釈迦さまが、出家して悟りを開くまでのお話でした。続きは来年です。

次は「子どもの花まつり」の歌を何度も歌ってお祝い気分になったところで、CDの歌に合わせて、子どもも大人も華葩(けは)を撒きながら花御堂の周りを回りました。続けて、一人一人が甘茶かけ。思いを込めて甘茶をかけて合掌しました。

最後は、楽しい雰囲気の中、坊守特製のカレー会食です。まずはほんのり甘い甘茶をいただきました。カレーも美味しくおかわりした子供達にお母さんやおばあさんが目を細めて大喜びでした。

来年も期待に込めて「花まつり」を実施します。是非一度体験してみてください。

坊守





道もなく天気も良かった。道もよく、痛みも併せて走行時間が長くても多くあり、痛みも併せて走行時間が長くても多くない百三十二キロの行程となった。夜は浜松餃子をおいしくいただいた。道中に山

中山真悟

京都く群馬ぶらり自転車旅(3)

二日目は名古屋市内で自転車を置いて観光。徳川美術館や清須城といった観光地を回るとともに名古屋グルメである矢場とんや名古屋コーチンを食す楽しい一日だった。三日目は静岡県浜松市に向けて出発。朝、名古屋別院で、本山の関係の方に声をかけていただきお話をさせていただけただけありがたい縁があった。出発してからは三河の一向一揆の拠点である本證寺、上宮寺、勝鬘寺に立ち寄りお参りしていった。本證寺では運よく寺院紹介のイベントが行われており、お話を聞かせていただきながら参拝できた。楽しかったなあと思いつつながら浜松を目指す道中、だいたい残り百キロとなったあたりから右ひざが悲鳴を上げ始め、痛みが耐えながらの走行となった。また、予定していたルート通りに行けない道も多くあり、痛みも併せて走行時間が長くても多くない百三十二キロの行程となった。夜は浜松餃子をおいしくいただいた。道中に山

【報告】あれこれ

◆お花見茶会◆

4月23日は毎年恒例のお花見茶会。参加者16名。月一回の「お茶べり会」の拡大版です。代表の福永さんが立ててくれたお抹茶を寺で用意した美味しいお菓子と共にいただきました。外に出て色とりどりのキリシマやオオムラサキツツジ等の庭を散策。満開の藤の花も良い香りを漂わせていました。にぎやかに和やかに五感のすべてを満足させたひと時でした。



◆音御堂スペシャル◆

4月19日、築地本願寺親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃法要の記念行事として開催。コーラスひまわりから6名が、200名の合唱団に加わり仏教讃歌を熱唱しました。観客も含めた満堂の中、委嘱曲「仏のみ名を聞きひらき」は、ファイナレを飾るにふさわしい大合掌でした。

◆災害義援金を送金しました◆

R6能登半島地震義援金として仏教壮年会22,080円、仏教婦人会26,055円。R5年度ウクライナ緊急支援金(2回目)、トルコ・シリア地震支援金、石川地震募金合わせて62,843円。

ご協力に感謝いたします！引き続きよろしくお願い致します。

坊守

編集後記

二十年程前に東井義雄記念館を訪れたことがある。「いのちの教育」の探求者と呼ばれた東井義雄先生の心に響く多くのことばに感銘を受けていた。当時は教育者としてしか存じ上げていなかったのだが、後に浄土真宗本願寺派東光寺のご住職であることを知った。今年お寺さんより「ほのぼのカレンダー」をいただいた。そこには東井義雄先生の詩が木版画の文字で添えられており、改めて心あたたまるお言葉に癒やされている。皆さんのご協力により寺だより第57号をお届けすることができました。

栗原 政廣

◆ 行事予定 ◆ 令和6年6月 ~ 令和6年9月

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
6月	2日(日)	壮年会役員会	5日(水)	組会
	11日(火)	おみがき		
	16日(日)	永代経法要		
7月	21日(金)	婦人会例会	27日(木)	組仏婦連盟総会
	2日(日)	壮年会総会		
8月	19日(金)	婦人会例会	26日(金)	組寺族女性会総会
			5日~7日	北ブロッコ門徒子弟研修会
	13日~16日	お盆		
9月	15日(木)	合同お盆法要		
	19日(月)	婦人会例会		
	19日~25日	秋彼岸	17日(火)	門徒推進員一日研修会
		18日(水)	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要	
				壮年会例会